

よりいっそう充実した実習を目指した車両等の更新

岡山県立興陽高等学校

大型機械化農業の実践を目標とする本校農業科は、圃場面積は約23haあり、使用する農業機械は種類が多くいずれも大型である。学校全体として実践教育に重点をおくなど農業高校実習予算も安定して遂行している。その予算の中で、各部からの要望や減価償却等、総合的に判断して、随時更新を計画的に実施している。

今年度は使用頻度が高く、更新時期が経過しているコンバインと外部対応に頻繁に利用する普通トラックを更新した。

コンバインは導入後25年以上経過し、老朽化した機種の新規の更新の緊急性を認め、クボタ「WR460（5条刈り）」を購入した。水田面積は約15haであるため、トラクタやコンバインは大型でメーカーのフラッグシップに近い排気量（馬力）の機種を使用して、集約的に稲作を行っている。選定理由は、従来のコンバイン（6条刈り）と比べて車体重量も比較的軽量

であり、機能性や作業効率が高く、5条刈りであっても十分な作業が行えるところであった。さらに、最新の性能を備えるだけでなく、メンテナンスがしやすい構造になっていたことによる。

普通車両は、三菱トラック「デリカ」を更新し、日産トラック「アトラス」を購入した。主として造園デザイン科で使用するが、校内アンテナショップや道の駅「みやま公園」への販売物の運搬や、1ヶ月に一度実施する警察署・運動公園・下水道公社での校外植栽実習に利用しており、使用頻度の高い車両の更新によりいっそう効率的な実習を行うことができる。

昨今の県予算削減等により設備更新が先送りされている現状があるが、生徒の教室となる圃場等で実習をおこなう場合、必要不可欠な車両等については、農業高校実習会計予算において綿密な計画を立て、更新を進める必要性がある。



クボタ コンバイン「WR460」



日産 トラック「アトラス」